

第2章

まちづくりの理念と目標



1 基本理念とまちづくりの目標

第1章 3.「まちづくりの課題」で示した4つの課題に対応するとともに、総合計画で掲げる将来都市像と土地利用の基本方向の実現に向け、「持続可能な、次世代に誇れるまちづくり」を基本理念として、4つのまちづくりの目標を定めます。

持続的発展につながる機能的なまちづくり

市の顔となる中心市街地や商業・公共サービス機能が整っている利便性の高い地域を拠点として位置づけ、拠点地域に商業施設や公共施設などの都市機能の充実を図るとともに、それらの地域へ居住を誘導し、集約的なまちづくりを目指します。

また、各拠点間をつなぐ公共交通ネットワークの充実による相互補完型のまちづくりを目指します。



活気あふれる、訪れたいまちづくり

中心市街地の更なる活性化を図るとともに、地域資源を生かした、魅力あふれるまちを目指します。

また、次世代に魅力のあるまちづくりとして、大学を核とした交流・高次教育機能等の形成や豊かな観光資源とスポーツを融合させたスポーツツーリズムを推進し、活気あふれるまちを目指します。



生涯住みやすく、誰もが安心して暮らせるまちづくり

道路・公園などのインフラの充実や、都市にうるおいを与える緑地や豊かな自然環境の保全により、誰もが快適に暮らせるまちを目指します。

また、子育て世代に魅力的な公共施設を整備するとともに、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らせるための医療や福祉環境を整えます。

都市の防災・減災機能、防犯機能の向上や空き家対策を進め、安心して住むことが出来るまちを目指します。



ポテンシャルを生かした成田らしいまちづくり

成田国際空港周辺や圏央道、北千葉道路等の広域交通ネットワークの整備による地域のポテンシャルを生かすため、国家戦略特区を活用した新たな産業や医療拠点の形成を図りつつ、適正な住環境の整備を進め、空港と共に成長するまちを目指します。

また、新勝寺や宗吾霊堂などの歴史文化的資源や印旛沼などの自然景観資源を活用した観光振興を図り、成田らしい魅力あるまちを目指します。



2 将来人口

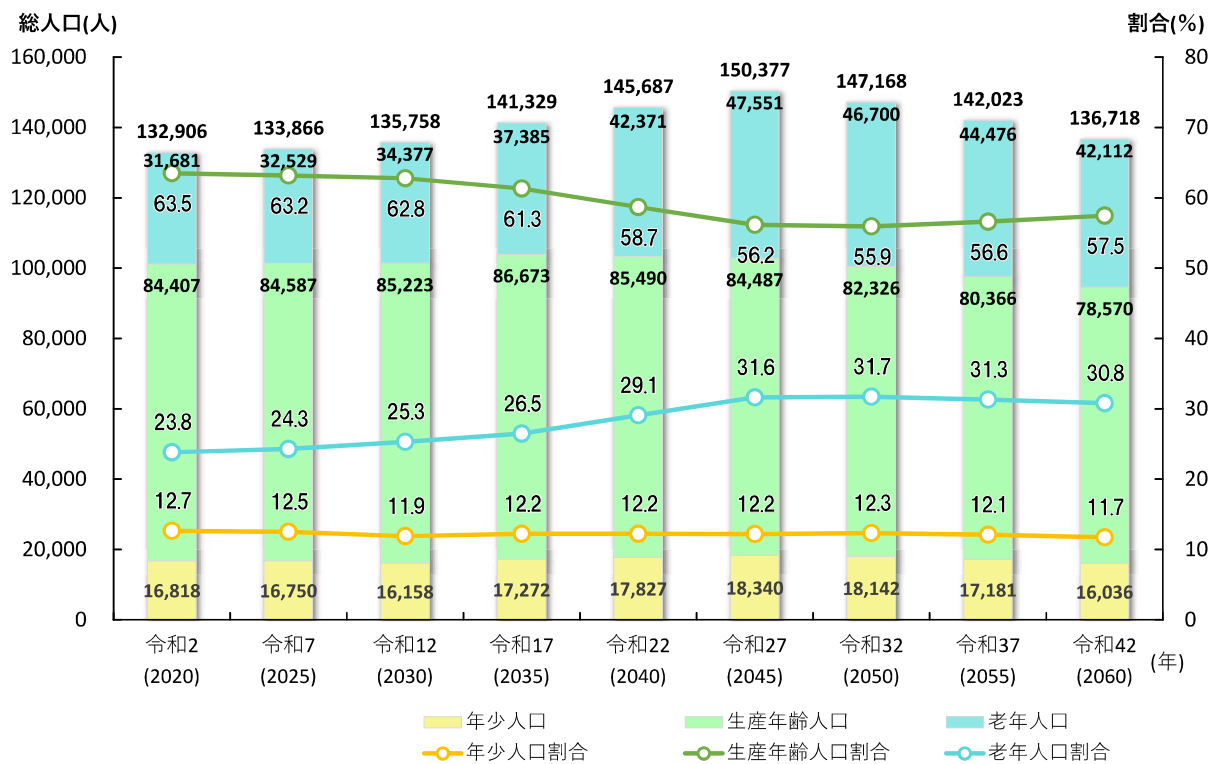
「第2期成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(令和4(2022)年3月)では、本市の人口は現在の13万202人から、令和27(2045)年の約15万人をピークとし、令和32(2050)年には約14万7千人となると見込んでいます。

年少人口(0~14歳)は今後約16~18千人で推移し、生産年齢人口(15~64歳)は令和17(2035)年をピークに減少局面に入ることが見込まれています。また、老年人口(65歳~)は令和27(2045)年まで増加の一途を辿っており、高齢化率は令和2(2020)年の23.8%から、令和32(2050)年には31.7%となると予測しています。

人口減少、少子高齢化は、生産年齢人口の減少による税収減、高齢者の増加による扶助費の増大など、自治体の財政面に大きな影響をもたらします。

そのため、持続可能なまちづくりに向けては、若者の流入を促す施策の展開や限られた資源を有効活用した効率的な行政運営の推進が求められています。

■図：本市の将来人口の推計



出典：第2期成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和4年3月)